

【振り返りと入試の最前線】

1. 模試ダブルヘッダー：数字の裏にある「本質」を見抜く

5 月の模試・中間考査、本当にお疲れ様でした。結果が返る前に「手応え」を整理しましょう。

1.1. なぜ「模試」を受け続けるのか？ 模試の真の目的は「本番で解けない問題を、今見つけること」

- 判定は「現在の到達度」の目安にすぎない： A 判定でも落ちる人はいるし、E 判定から逆転合格する人は毎年たくさんいます。大切なのは判定そのものではなく、判定に至った「失点の内訳」です。
- 「何ができていないか」の宝庫： 模試は本番の入試傾向を分析して作られた「予想問題集」です。ここで間違えた問題は、そのまま放置すれば本番でも同じミスをします。つまり、**復習した分だけ、本番の合格率が数パーセントずつ上がっていく**のです。

1.2. 「一喜一憂」は時間の無駄

- 模試の後にすべきこと： 判定を見て「終わった」と思うのではなく、「自分の弱点が明確になった。これでどこを勉強すればいいか分かった」と捉えてください。
- 行動を変える： 数学教科担当として言いますが、計算ミスもケアレスミスも「実力不足」です。なぜミスしたのか、次にどう防ぐのかを言語化（メモ）し、それをノートにまとめてください。

1.3. 次のターゲット：7 月・8 月の夏決戦

今回の模試で浮き彫りになった課題を、次の模試までにどう克服するか。ここからが勝負です。

ターゲット模試	日程	目標
第 2 回 共通テスト模試	7 月 27 日(月)	基礎概念の定着確認。全問時間内に解く「リズム」の体得。
第 2 回 記述模試	8 月 23 日(日)	記述力（論理性）の向上。部分点を拾う「粘り」の証明。

1.4. 模試の振り返り：5 つのステップ（Action Plan）

今日から以下のステップをルーティン化してください。

1. 自己採点の徹底： 記憶が鮮明なうちに、自分の「解答」と「解説」を照らし合わせる。
2. 「なぜ」を言語化： 「計算ミス」「知識不足」「時間切れ」「考え方の誤り」……間違えた理由を具体的にメモする。
3. 「復習ノート」の作成： 解けなかった問題の「解法プロセス」を自分の言葉で書き直す。
4. 類題演習： 似たパターンの問題を参考書で探し、24 時間以内に解き直す。
5. スケジュール修正： 次の模試までの学習計画を、今回の課題をもとに再構築する。

【進路主任の眼】

「模試の結果を武器に変えられるか、紙屑にするか。それは皆さんの『復習への執着』次第です。7 月の共通模試、8 月の記述模試という夏の大目標に向けて、この 5 月の模試結果を『徹底的に』使い倒してください。君たちの伸びしろは、まだ無限大です。」

2. 専門学校情報交換会：プロへの道筋を具体化する

先日実施された交換会に参加した皆さんは、具体的な将来像が見えてきたでしょうか。

- **振り返り**：専門学校は「技術」だけでなく「業界との繋がり」を手に入れる場所です。必要な学費や資格、就職実績を数値で比較し、納得感のある選択をしてください。

3. 徹底解剖：総合型選抜ガイダンス（6月16日実施）に向けて

総合型選抜は、大学との「マッチング」を問う高度な入試です。ガイダンスに臨む前に、自分の現在地を確認しましょう。

■ あなたは総合型に向いているか？「適性チェック」

以下の4つの特徴に、今の自分がどれだけ当てはまるか考えてみてください。

- **明確な目標があるか**

「なぜその大学でなければならないか」を、自分の言葉で具体的に語れますか？漠然とした「有名だから」という理由では合格できません。

- **主体的に行動してきたか**

部活動、ボランティア、資格取得など、自ら動いた経験はありますか？その経験から何を得たかが、書類や面接での最大の武器になります。

- **伝える力（表現力）を磨く覚悟はあるか**

面接や小論文、プレゼンテーションは、自分の考えを「相手に伝える」場です。これらを粘り強く練習し、向上させる意欲が必要です。

- **好奇心旺盛か**

自分が学びたい学問に対して強い興味を持っていますか？大学の「アドミッション・ポリシー（求める学生像）」とあなたの好奇心が合致しているかが重要です。

判定：チェックが3つ以下の場合、まずは「自己分析」から始める必要があります。今から自己分析を行う時間がどれだけありますか？周囲の受験生はそれぞれ歩き出しています。安易な年内入試の選択だけはやめてください。4つ全ての人は、合格の可能性が非常に高いですが、その分「一般入試への油断」が最大の敵になります。一般受験を受ける気持ちで並行して準備をすることが大事です。

■ 6月のガイダンスまでに準備しておくこと（Pre-Tasks）

ガイダンス終了後、以下の4つを用意してもらいます。2～4は事前に準備をしておくことをおすすめします。これはただ単に申し込みをするわけではなく、「指導を受ける準備ができているか」を審査する場です。

1. 出願予定大学の「要項」のコピー

（本年度版が未発表の場合は、昨年度のもので可。入試内容を把握するため。）

2. 作成済みの課題（小論文・志望理由書など）

大学から課されている課題を、「今自分ができる最高の内容」で完成させた状態で持ってきてください。

3. 上記課題の「白紙の原本（または予備）」

4. 個別指導申込書 ※ガイダンス当日に配付します。

添削や書き直しの指示を受ける際に使用します。

4. 6月のマインドセット：中だるみを「深化」に変える

中間考査が終わり、気が緩みがちな6月こそ、真の実力が決まります。

★**学習の定着**：応用問題に焦る必要はありません。6月は基礎の「徹底的な自動化」を目指しましょう。